

Weekly Report

2025-26



よいことのために手を取りあおう

創立 / 1965年5月22日
例会日 / 毎週木曜日 PM12:30~
会場 / 江南商工会館1F 大ホール
江南市古知野町小金112
0587-54-8132
事務局 / 江南商工会館 別館1F
TEL / 0587-55-6554
FAX / 0587-59-7720
URL / <https://www.kounan-rc.com/>
Mail / kounanrc@beach.ocn.ne.jp
会長/沢田 昌久 幹事/尾関 育良 会報委員長/野々垣 裕司

2026年(令和8年) 5月14日(木) 晴れ 第2870回(当年度第30回)例会

点 鐘
司 会
国歌斉唱
ロータリーソング斉唱
四つのテスト斉唱
— 言行はこれに照らしてから —
1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか

会長 沢田 昌久君
SAA 川崎 良一君
「君が代」
「奉仕の理想」
ソングリーダー 岩田 進市君
内田 吉信君

今日は、私の仕事柄、介護保険と成年後見制度について、話そうと思います。
この制度は、私が食品スーパーをたたんだ年に始まりました。行政が介護サービスの提供を決める措置の制度から、利用者が「選べる福祉」へ変化し、認知症の人や障害者を、無能力扱いの禁治産者制度から「自己決定権の尊重」へと変わる、いずれも大転換の年でした。
私も、制度上まったく無知の状況から、施設を立ち上げて福祉や介護の世界に首を突っ込み、走り始めた年でもありました。

ゲスト及びビジター紹介



エギアザリヤン カリネさん

その中に成年後見制度があって民法上の抜本改正案が今国会で成立する見込みとなりました。法務省の中には、法制審議会があって成年後見部会もその中にあります。その部会では平成24年4月から33回も議論を重ねてきたと言われています。
この成年後見制度は、認知症や知的障害など判断能力が十分にできない人の財産や生活を支援する目的で作られました。また、本人や親族に代わって居住地の市区町村長が利用開始を家裁に求める首長申し立てが昨年制度開始以来1万件を超えており全体の申し立ての1/4を占めたそうです。この法律ができたころは、親や親族が申し立てをしていましたが、身寄りがない人が増えたために、地域の首長が申し立てをするようになったそうです、それも青森や徳島、釧路が40%台で推移しており、この制度は一度開始すると止めることができないという難しさがあるのも、問題となっています。

会長挨拶

会長 沢田 昌久君



こんにちは。

「認知症の高齢者が推計700万人を超える中で、成年後見の利用者は約25万人ですから約3.6%、5%にも満たない数です。
別の問題は、申し立てに手間・時間・費用がかかることです。
現行制度では、3類型に分かれ「後見」であれば能力を欠く状況「保佐」であれば著しく不十分、あとは「補助」としていますが、「後見人の妹が1万円のマフラーを買ってやったら家庭裁判所から“贅沢だ”と怒られる始末です」本来「自己決定権の尊重」とうたいながら、生活の全てを管理され、本人の意思が尊重されにくい。また利用を始めるとやめられない。
じゃあ、今回の制度改革はどうなるのか。後見、保佐、補助を「補助」に1本化し、本人の意思や判

断能力に応じ「補助人」の支援内容を個別に決めていくというオーダーメイド型への思い切った転換になるようです。預貯金の取扱等は、「補助人」の同意が必要にはなるが、同意無くして行えば「取り消し権」を使えるということになります。これも家庭裁判所が制度利用を不要と認めれば、途中終了や「補助人」の解任の検討対象になるそうです。しかし、実際は制度の利用終了後の暮らしをいかに支えるかです。

介護保険は、介護、福祉、医療の連携を図る「地域包括ケアシステム」を大目標としていますが、要は地域ぐるみの支えあいが大前提となっているので、結果みんなで助け合わなければ何もできないということになります。

米山奨学金授与



米山奨学生 エギアザリヤン カリネさん

幹事報告 -別紙-

幹事 尾関 育良君

祝 福

委員長 田岡 剛君

出席報告

副委員長 松野 拓也君

会員数	出席者数	欠席者数	出席率
56名	38名	18名	71.70%

ニコボックス

副委員長 松野 拓也君

○次年度会長エレクト永田広光君、次年度国際奉仕委員長三輪慎一郎君、次年度公共ロータリー財団常任委員長岩田静夫君、次年度青少年奉仕委員長伊藤由香君、次年度米山記念奨学委員長杉浦賢二君、クラブ・リーダーシップ・ラーニングセミナー報告宜しく申し上げます。

米山奨学生 エギアザリヤン カリネさん、ようこそ江南ロータリークラブへ

沢田 昌久、中村 耕司、尾関 育良、佐藤 弘夫 各君

○カリネさんようこそ江南RCへ、本日の卓話よろしく申し上げます。

杉浦 賢二君

○布袋駅で新しいお店を出すことにしました。お酒を出す店です。よろしく申し上げます。

松野 拓也君

○5/14(木)

米山奨学生 エギアザリヤン カリネさん、ようこそ江南ロータリークラブへ!

クラブ・リーダーシップ・ラーニングセミナー報告 永田広光君、岩田静夫君、杉浦賢二君、三輪慎一郎君、伊藤由香君 宜しくお願い致します。

富永 典夫、片平 博己、岩田 静夫、杵本 哲一、長瀬 晴義、波多野 智章、木本 寛、岩田 進市、三輪 慎一郎、伊藤 かね子、田岡 剛、内田 吉信 各君

卓話

「クラブ・リーダーシップ・ラーニングセミナー報告」



次年度会長エレクト 永田 広光君

当日は、本会議、特別講演、分科会の流れで開催されました。國府谷(このや)ガバナーより地区方針「元気でなかよく楽しくそして高潔に」新たな視点からの挑戦ということで説明とご挨拶がありました。その中で、クラブ、メンバーに対し学びの場を提供していきたいとお話がありました。

特別講演では、第2840地区バストガバナー、高崎ロータリークラブの田中久夫氏による講演をお聞きしました。特に興味をそそられたのは、増強に関する部分でした。京都南ロータリークラブさんを例に挙げられました。現在会員は250名、正確には259名で入会待ちが50名いるそうです。何故入会待ちなのかといいますと、例会会場のキャパ問題だそうです。会費についても、年会費が月5万計算の60万、それからプラスαで30万の年間90万費用がかかるのにも関わらず50名もの入会希望者がいるということです。そして何故かという部分で、簡単に入会できるクラブは、簡単にやめてしまうので、入会希望者が是非入会したいというクラブになるように会員一人ひとりが、意識をもって活動しようとお話でした。気になって京都南ロータリークラブのHPをのぞいてみたら、チャーターメンバーに、茶道裏千家15代家元の千玄室さんが名誉会員でチャーターメンバーであると記載がありました。その影響もなるのかなと感じました。

最後に、講演最中に何度もPRされてました著書「ロータリークラブに入ろう」「そうだったのかロータリークラブ」を気になり講演中にアマゾンで2冊ぽちりました。

著書の中で、ロータリークラブにとって大切な概念は職業奉仕であるとか増強の障壁は何か、また増強の実践事例などなどロータリーに関する内容がス

トレートに書かれております。特に次年度理事役員の皆さんは購読されることをお勧めします。



次年度国際奉仕委員長 三輪 慎一郎君

去る4月5日(日)、名古屋マリオットアソシアホテルにて、クラブ・リーダーシップ・ラーニングセミナーが開催されました。

お弁当を頂いた後、12:30～ 本会議に出席し、13:15～ 会員増強についての特別講演がありました。

そして14:15～ 9つの分科会に分かれ、第4分科会(国際奉仕)に参加しました。初めに地区の次期国際奉仕委員長の鈴木拓将さんよりリーダー挨拶があり、昨年STSに来て頂いた「矢場とん」の社長さんだと気付き、勝手に親近感が湧いておりました。

その後、二人の副委員長さんから「国内でできる国際奉仕活動」と「海外でできる国際奉仕活動」についてお話がありました。

地区内84クラブに確認したところ、国際奉仕活動をしていると答えたクラブは38クラブ、率にして45%という事でした。そのうち海外が24クラブ、国内が14クラブでした。その事例紹介の一番上の行に「江南RC 国際交流の集い」とあり、KONANマルシェのチラシも紹介され、ちょっと誇らしい気分でした。

国内での国際奉仕活動の方法としては、行政や地域の国際交流協会等とのコラボイベントや、地元の祭りでのブース出展などが推奨されておりました。江南RCでも、昨年から江南市国際交流フェスティバルに「書道体験」のブースを出展しており、「国際奉仕活動の継続事業」と言えるのではないかと思います。

次に、海外での国際奉仕活動の事例として「カンボジアの小学校に保健室を作る」という取り組みが紹介されておりました。大変そうな事業ですが、3つのクラブと地区の委員会も協力して行い、費用も1クラブ10～20万円程+地区の予算を使い、実施できたという事です。その他にも、海外の子供からはトイレが欲しいという声が多いそうです。最後に、海外での国際奉仕活動を計画される際は、ぜひ地区の委員会に相談して下さいというお話でした。



**次年度公共ロータリー財団常任委員長
岩田 静夫君**

4月5日に開催されました2026-27年度クラブ・リーダーシップ・ラーニングセミナー第6分科会 テーマ「ロータリー財団を学んで理解しよう！」に参加してまいりました。

次期ロータリー財団委員長である名古屋清洲RCの江川泰彦氏の挨拶の後、「ポリオ根絶に向けて」「ロータリーのクレジットカード」等々のプログラムの内容をそれぞれの担当副委員長から説明を受けました。

ご承知の通り、ロータリー財団は、皆様からの寄付のみによって支えられています。そして「人びとの健康状態を改善し、質の高い教育を提供し、環境保護に取り組み、貧困をなくすこと」を使命として、世界各地で多くの奉仕活動を展開しています。

寄付分類の中でも「恒久基金」はその名のとおり、将来にわたってのロータリーの奉仕活動を支え続けるための基金です。元金は使用せず、運用益のみを活用することで、永きにわたりロータリーの奉仕活動を支え続けます。言い換えれば、恒久基金は、私たちの想いを「未来への贈り物」として残す仕組みです。

寄付は義務ではなく、「誰かの人生を変える選択」であり「ロータリーの理念を形にする行動」と考えると考えます。

ポリオ根絶活動をはじめ、平和の推進、疾病予防、水と衛生、教育支援、地域経済の発展など、私たちロータリアン一人ひとりの志は、確かな成果となって世界へ広がっています。

そうした中で、本年度はひとつ、皆様にお願いがございませう。未来への贈り物である恒久基金について、お一人あたり20ドル以上の寄付を、ぜひ検討いただきたいということです。この20ドルが、将来にわたり運用され、やがて大きな力となってロータリーの活動を支え続けていきます。決して大きなご負担ではなくとも、その積み重ねが、確かな未来をつくる礎になると信じております。



次年度青少年奉仕委員長 伊藤 由香君

2026年4月5日に開催された2026-2027 クラブ・リーダーシップ・ラーニングセミナー第7分科会の青少年委員会についての報告をいたします。今回のテーマは、「青少年奉仕は楽しく高潔に・・・」です。「高潔」という語は次年度地区方針に沿って取り入れたとのこと。本研修は、インターアクト、RYLA、青少年交換、学友、ローターアクト各委員会の順に行われました。

まず、インターアクトクラブは、震災復興支援活動、障がい児支援、グループホーム訪問、清掃活動、国際理解の為にプログラム開催、募金活動等を行っています。本地区のインターアクトクラブは19で、2月末現在で約600名のインターアクターがボランティア活動をしています。地区インターアクト委員会は、各インターアクトクラブの横のつながりの構築、活動状況や情報の流通の促進、規模が大きい地区イベントのサポート、クラブ同士の合同ボランティアのコーディネーション等を担っています。インターアクトの活動内容については、実際に本地区で活動をしている春日丘高校と大成高校の生徒代表が登壇し、それぞれが行っている活動をわかりやすく説明していました。

次にRYLA(青少年指導者養成プログラム)についてです。このプログラムは地区RYLA委員会とともに経験者や学友会が支えており、1泊2日といった短期集中型で、16歳～30歳の各世代参加者が集って学びを進めるものです。次世代育成を目的としているセミナーですが、統一規格がなく、各地区で理念や方法が異なっており、多様な形で行われています。このセミナーの運営には、プログラムの体系化、カウンセラーシステムの確立、ディスカッション設計が重要で、質が保証されるような仕組みづくりが求められるとのこと。セミナーが終了した後にRYLArianとしての実践を通して社会での成長が始まるので、委員会としてはセミナー後に継続的な関わりを持つことと、セミナーのアップデートが必要であると話され、「人が変わることによって社会が変わる、その最初の一步を、RYLAで」ということばで締められました。

青少年交換プログラムは1929年に始まり、現在は年間9,000人、100か国の青少年が参加しています。アウトバウンドもインバウンドも、候補生として過ごす1年の後、交換生としての1年、終了後の1年(ROTEX)を通して、親善大使としての役目を果たしながら、異文化理解や新しい友情・家族を作り、人としての成長を培うプログラムです。非常に有意

義なプログラムですが、問題点が四つ提示されました。(1)スポンサーロータリークラブの不足、(2)ロータリアンによるホストファミリー不足、(3)過去に受け入れたインバウンド生の悪いイメージ、(4)受入クラブの金銭的負担です。ホストファミリーについては、候補生や保護者が自分で探すよう依頼しているとのことですが、他の問題点については是非取り組みに協力してほしいとの要請がありました。最後に、国際ロータリー日本青少年交換研究会愛知会議が本年6月12日(土)、13(日)に行われる旨告知がありました。

学友についてですが、先日江南ロータリークラブにゲストとしてお越しいただいた大橋均様が登壇されました。2023年に認証されたこと、青少年プログラムに参加した経験者で構成されていること、これまでの活動について説明されましたが、時間的制約のため、3月26日の卓話の方が詳しく説明されていました(特に課題については本研修では全く触れていませんでした)ので、本報告ではここまでとさせていただきます。

最後に、ローターアクトです。現在は国際ロータリー加盟クラブとなっており、18歳以上の男女で大学か地域社会を基盤とするクラブとなります。本地区では2大学、7地域の合計9ローターアクトクラブが27のスポンサークラブと7協カクラブによってサポートされています。ローターアクト委員会は、ローターアクトの活動基盤整備や相互の関係強化を担っており、実際の活動については、地区ローターアクト代表エレクトから、次年度の役員構成やテーマ、現状と次年度の取り組み等が説明されました。ロータリークラブと同じで、やはり会員増強は一つの課題ですが、同時に、デジタルツールの積極的な活用により業務の負担軽減とクラブ間の困りごと解決に取り組むとのこと。

今回の研修で感じたことは、青少年委員会は実際に活動する人たちのサポートをするという立ち位置であるため、まずはサポート対象となる人たち(奉仕活動の実践者)の存在が必要で、ロータリークラブ側が、未来の奉仕活動希望者に対してどのようなスタンスを取るのかということにも依りますが、今後奉仕活動に興味関心を持つかもしれない人たちに、ロータリーに関わる形で活動することへの動機付けとなるような仕掛けが必要なのではないかということです。以上、報告いたします。



次年度米山記念奨学委員長 杉浦 賢二君

①ガバナー挨拶(鈴木康仁ガバナー)

今回のセミナーは、これまでの「地区研修・協議

会」から名称を改め、「クラブ・リーダーシップ・ラーニングセミナー」として開催されました。その背景には「教えられる研修」から、「自ら考え、学び、クラブへ持ち帰り生かす学びの場」へ転換していこうという強いメッセージが込められています。続いてロータリーは、地区や国際組織が主役なのではなく、一つ一つのクラブの積み重ねによって成り立っている組織であるという点を強調されていました。つまり、クラブ・リーダーである私ひとり一人が、何を考え、どのように運営に向き合うかが、そのクラブの1年間を形づくるということです。

②ガバナーエレクト挨拶(國府谷ガバナーエレクト)

まず、次期国際ロータリー会長のテーマとして、「CREATE LASTING IMPACT(持続可能なインパクトを生み出そう)」が紹介されました。短期的なイベントや一過性の事業ではなく、未来に残る価値を生み出す活動が、これからのロータリーに求められているという考えです。地区として特に力を入れるテーマは「日本の子どもたちのために」。子どもの自殺率の高さや、虐待件数の増加など日本社会が直面する深刻な課題を示したうえで、クラブとしてこの現実を目に向け、行動していくことの重要性を訴えられました。また、ロータリーのチカラは、「組織」ではなく「人の変容」であると語られました。一人一人がロータリーを通じて成長し、考え方が変わることで、その影響が家族や職場、地域社会へと波及していく。それこそがロータリーの本質であるというお話でした。更に新しい取り組みとして、ポリオ根絶支援に加え、日本の子ども支援も視野に入れた「ロータリードネーションフェスト」構想が紹介されました。國府谷ガバナーエレクトとの次年度テーマは、「元気で、なかよく、楽しく、そして高潔に～新たな視点からの挑戦～」です。

③第8分科会：米山記念奨学事業

続いて第8分科会、米山記念奨学事業についてです。米山記念奨学事業は、日本全国のロータリアンの寄付によって支えられている日本最大規模の民間外国人留学奨学制度です。この事業の特徴は、単なる奨学金の支給にとどまらず、奨学生一人一人に世話クラブとカウンセラーが付き、継続して関わる点にあります。お金だけではなく、人との出会い、例会への参加、家族的な交流を通じて日本文化やロータリー精神を学んでもらう。そこに、米山事業ならではの価値があるという説明がなされました。

まとめ(結び)

今回のCLLSを通じて感じたことは、クラブ運営の原点は、やはり「人」であるということです。そして米山記念奨学事業は、その「人づくり」を象徴するロータリーらしい奉仕事業であると改めて実感しました。

点 鐘

会長 沢田 昌久君

本日の食事



会報掲示板



My ROTARY

※ログインしてご覧ください。

(担当: 副委員長 木本 寛)